

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2020.2. VOL.41

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

医学教育分野別評価受審を終えて



10月7日から11日までの1週間にわたって、日本医学教育評価機構(JACME)による医学部教育の評価を受審しました。ご協力いただいた職員のみなさんに心から感謝申し上げます。

2017年9月12日に医学教育分野別評価受診委員会を設置し、全教授が自己点検評価報告書を分担執筆して取り組む方針とし、2年間かけて準備しました。2018年12月には各教授による基本的水準に関する情報・現状分析・自己評価の執筆を完了しました。2019年1月-3月には医学部長、早野順一郎医学・医療教育学教授、杉浦及び事務担当者による早朝会議を行い、現状への対応・改善に向けた計画の執筆を完了しました。4回にわたり医学教育FDを開催しました。2018年度には医療人育成推進センターを設立し、医学教育を研究・分析してカリ

キュラムや入学試験に反映させるためIR部門も設立しました。さらにカリキュラム評価委員会を設置し、外部委員からカリキュラムを評価していただく体制を整えました。

しかし残念ながら、最終日の総評において、本学の医学教育には改善すべき点が多いことがわかりました。

新カリキュラムに基づいて、2019年1月から診療参加型臨床実習を導入しましたが、機構によれば、チームの一員として医療を実践することが診療参加型であり、本学のは診療参加型、とは言えないそうです。医学教育FDの回数、参加者数共に不十分であり、ポートフォリオは教員に浸透していませんでした。卒業時コンピテンシーも学生に理解されていませんでした。意味不明な用語がいけないのでしょうか。若い医師、教員、学生にその趣旨が伝わっていなかったことが反省点でした。

受審結果は来年6月頃に報告されますが、現在、医学教育改善のための委員会(仮称)において改善計画を策定しています。診療参加型臨床実習を理解するために医学教育FDを開催し、学生の態度を評価し、学生の意見を積極的に取り入れます。

学生を含めて医学教育に関わる全ての人が医学部教育の改革に取り組まなければいけません。皆様のご協力をお願い申し上げます。



2019(令和元)年12月
医学教育分野別評価受審実行委員会委員長
教育担当副医学部長 杉浦真弓

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

教 育

医学教育分野別評価を終えて

名市大医学部として初めてとなる、医学教育分野別評価に向けて事務担当者も準備に奔走しました。

平成30年3月までは事務が担当する資料について、基本情報の収集や編さん作業を行っていましたが、平成30年3月27日に日本医学教育機構から自己点検報告書・根拠資料の提出日、実地調査日の通知があり、改めて原稿の提出期限が決められてからは、医学部長(研究科長)を含め3名の教授と事務2名体制で毎日の朝会議で資料のブラッシュアップを行いました。自己点検報告書が完成したのが翌年5月中旬でした。

それと同時に根拠資料の収集、編さん作業を急ぎ、報告書の印刷・製本、根拠資料集の作成を令和元年7月24日の提出期限に間に合わせることができました。

その後も実地調査日(10月7日～11日)へ向けて、会場準備、要員の分担など忙しい日々が続きましたが、無事受審を終えることができました。正式な評価報告書は来年となるため、当面は実地調査で指摘された事項について改善作業を行っていきます。

文責:教育研究課医療人育成係

医学部4年生を対象にOSCEを実施しました

2019年9月28日(土)に、附属病院西棟で、共用試験OSCEを実施しました。

OSCE(Objective Structured Clinical Examination、オスキー)とは、臨床実習時に必要な技能・態度を身に付けているかを測る全国共通の試験で、本学では例年、医学部4年生を対象に実施されています。

当日は評価者・誘導担当の教員約50名、身体診察模擬患者役の医学部3年生、外部の医療面接模擬患者の協力のもと、100名が受験。医療面接や身体診察の課題に、真剣に取り組んでいました。

試験に臨んだ4年生は、全員が無事合格。今後彼らは共用試験CBT(Computer based Test)の受験を経たのち、Student Doctorとして2020年1月より臨床実習に臨みます。医療人としての第一歩を踏み出した彼らを、今後とも厳しく、そして真摯にサポートしてまいりたいと思います。

文責:教育研究課医療人育成係



医学部3年生による2019年度基礎自主研修発表会が開催されました

2019年度11月22日金曜日9時から17時過ぎまで、医学部3年生基礎自主研修発表会が、医学部研究棟11階の講義室A、講義室Bで開催されました。基礎自主研修は、名市大医学部では20年以上も前から継続され、毎年研修の終了時に全員による口頭・ポスター発表会を行ってきました。今年度の医学部3年生は、9月から約3ヶ月間基礎自主研修を行いました。配属先は、医学部の基礎の各研究室に加え、本学薬学部、総合生命理学部、経済学部や国立がんセンター、国立長寿研、海外では韓国・ハルリム大学、オーストラリア・ボンド大学など、多岐にわたります。

発表会では、個人の研究とグループによる研究を合わせて、全部で67演題の発表がありました。医学部基礎の各研究室から派遣された教員が審査員として主に質疑を行い、活発に討論が行われました。その結果、ポスター発表も含めての採点の上、本年も4人の最優秀賞が選出されました。

本基礎自主研修を通して医学部3年生には、基礎研究の重要性と厳しさ、面白さを学んでいただけたのでは、と思います。2018年度にノーベル医学生理学賞を受賞した本庶先生、Allison先生の画期的ながん免疫療法も基礎研究無しでは生まれませんでした。基礎自主研修の経験を活かして、将来、多くの患者様へのフィードバックを目指して、原因不明の病気の解明や新しい治療法の開発のための研究をする医師に育ってくれることを期待しています。

文責:2019年基礎自主研修世話人 医学部免疫学教授 山崎 小百合



02 研究

Current topics in research

研 究

脳神経科学研究所開設にあたって ～次の30年を目指す、新たな挑戦～

2019年10月1日、名古屋市立大学医学研究科に脳神経科学研究所を開設いたしました。それを記念する「脳神経科学研究所開設記念講演会」が10月17日に病院大ホールで開催されました。郡健二郎理事長ならびに河村たかし名古屋市長にご挨拶いただいた後、国立長寿医療研究センター理事長の荒井秀典先生および上海科技大学教授の御子柴克彦先生に基調講演をいただくとともに、本研究所の澤本和延教授、齊藤貴志教授、山川和弘教授、ならびに薬学研究科の服部光治教授による記念講演が行われました。

当研究所の目的は、超高齢社会で増加する認知症などの加齢脳疾患、社会的関心が高い発達障害、精神疾患等を含む脳神経科学研究において、「世界をリードする基礎研究を推進する」ことにあります。脳・精神疾患の病因遺伝子・責任分子を同定し、その機能解析を通して発症メカニズムの解明を進めるとともに、学内外の研究機関・病院と協力・連携を図りながら、真に有効な予防・治療法の開発につなげることを使命とする研究所です。

当研究所の前身は、32年前に設立された分子医学研究所です。各階にRI施設が設置されるなど時代の先端を行く研究所として誕生し、多くの成果を上げてまいりました。同時に、分子研が歩んだこの30年間における科学技術の発展・変化は劇的でした。ヒトゲノム解読が2003年に完了し、疾患発症リスクや発症様態にとどまらず、性格などの精神・心理面での記述が遺伝子レベルで可能になる時代に入りました。インターネットは人類にサイバー空間を作り、情報発信に革命をもたらしました。人工知能(AI)の進化とAIによる社会変革が速度を増して進んでいます。一方、この30年間に我が国は超高齢社会に突入し、医学研究の対象とする疾患や社会的な関心を集める疾患構造も大きく変化しました。こうした時代状況の変化とともに、医学研究所に求められる使命と役割も変化してきております。それに応え、人類の未来をリードすることを目的に脳神経科学研究所は誕生したのであります。

脳は人体最後のフロンティアであり、21世紀の科学技術の主要な対象であることに疑いはありません。人間を人間たらしめているのは脳であります。ゆえに認知症などの加齢脳疾患、脳の発達障害、精神疾患の克服は、その患者数の増大と相まって、社会的関心も高く、ニーズも強いものとなっております。新たな30年を目指して誕生した脳神経科学研究所に対しまして、どうか皆様のあたたかなご理解とご支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

文責:名古屋市立大学大学院医学研究科長 脳神経科学研究所長 道川 誠



開設記念講演会にて



脳神経科学研究所の新しい看板

新任教授紹介

神経発達症遺伝学分野— 山川 和弘 教授

2019年10月1日付で名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経科学研究所 神経発達症遺伝学分野の教授を拝命致しました山川和弘(やまかわかずひろ)と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は、1979年に名古屋市にございます私立東海高校を、1984年には京都大学理学部を卒業した後、東洋紡株式会社で分子生物学用研究試薬、遺伝子診断システムの開発研究に、1990年からは癌研究会癌研究所において中村祐輔部長のご指導のもと、ヒト疾患のゲノム解析研究に携わりました。1994年から1997年までは米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部(遺伝医学部門)に博士研究員として留学し、Julie Korenberg教授の指導のもと、ダウン症およびてんかんの分子遺伝学的研究を行いました。帰国した1997年には、理化学研究所・脳科学総合研究センター(BSI)(現:脳神経科学研究センター(CBS))・神経遺伝研究チームのチームリーダー(研究室長)を拝命し、本年まで発達障害・てんかん・ダウン症などの神経疾患の分子遺伝学的研究を進めてまいりました。

私が所属する脳神経科学研究所は私の赴任と時を同じくして本年10月1日に開所されました。この研究所は神経発達再生医学、認知症科学、神経発達障害遺伝学などの研究室を擁し、様々な面から脳神経疾患へのアプローチを目指すものです。当研究所において私も、発達障害などの神経疾患の原因解明と治療法開発に全力を尽くしてまいります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



山川 和弘 教授

新任教授紹介

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野— 岩崎 真一 教授

この度2019年11月1日付けで耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野の教授を拝命いたしました岩崎真一(いわさき しんいち)と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は宮崎県出身で、1992年に東京大学医学部を卒業し、同医学部附属病院およびその関連病院において、耳・鼻・咽喉頭・頭頸部癌など耳鼻咽喉科の様々な領域の臨床を経験した後、東京大学医学部耳鼻咽喉科の准教授として、耳科学・神経耳科学を中心に診療を担当してまいりました。手術におきましては、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術、高度難聴に対する人工内耳埋込術、耳硬化症に対するアブミ骨手術などの耳科手術を担当し、外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)、人工内耳における正円窓アプローチなど、新たな手術手技や手術機器を積極的に導入して参りました。また、外来診療におきましては、多数のめまい・難聴の患者さんの診察を行うとともに、左右6つの半規管の機能を新たな耳石機能検査である前庭誘発筋筋電位(oVEMP)や、簡便に末梢前庭障害の有無についてスクリーニング可能なラバー負荷検査、難治性の平衡障害に対する新規治療であるノイズ前庭電気刺激装置など、新たな内耳機能検査や治療機器の開発に取り組んでまいりました。

私自身が専門としております、耳・めまい疾患の領域だけでなく、鼻・副鼻腔疾患、咽喉頭疾患、頭頸部がんなど、耳鼻咽喉科全ての領域において、強固な診療体制を整え、地域医療に貢献するとともに、各分野において、次代を担う若手医師が次々に育ってくる教育システムを構築し、教室をますます発展させていきたいと考えております。ご指導・ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。



岩崎 真一 教授

新任教授紹介

地域医療教育研究センター— 安藤 亮介 教授

令和元年11月1日付けで地域医療教育研究センター教授を拝命し、三重北医療センターいなべ総合病院に着任いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成12年に三重大学医学部を卒業後、安城更生病院での初期研修を経て、本学泌尿器科に入局しました。名古屋市立大学では、低侵襲手術(腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術)の経験を積む機会を与您いただきました。いなべ総合病院では、竹山廣光三重北医療センター長、舟橋整副院長の下、令和元年9月に低侵襲手術センターが開設されました。さらに、内視鏡手術用支援機器(ダヴィンチXi)が導入され、令和2年1月からの手術開始を目指しております。がん患者さんに対して最新の医療を安全に提供するだけでなく、高齢者の多い地域の要望に応える専門性の高い排泄ケアをこれから充実させていきます。

また私は、泌尿器科疾患の予防を研究テーマとしております。大学院博士課程では、公衆衛生学分野との共同研究を行い、一地域に密着したコホート研究を実施しました。その研究成果から、尿路結石の発症にメタボリックシンドロームが関連することを報告してきました。これまでの予防医学研究をさらに推し進めて、地域での健康寿命の延伸につなげることを今後の目標にしたいと考えております。

「地域医療」を取り巻く環境は大変厳しい状況にありますが、これまで名古屋市立大学で学んだ泌尿器科診療、医学教育の経験を活かして、私自身が名古屋市立大学といなべ総合病院との連携の橋渡しの役割を担うことにより、「地域医療」の発展、質の向上に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



安藤 亮介 教授

若手期待の星★

令和元年度 水谷孝文賞受賞者紹介

名古屋市立大学初期研修プログラムでは、故水谷孝文先生(八事病院前理事長)・水谷浩明先生(八事病院理事長)のご厚意により研修医育成基金を頂きながら研修の活性化に取り組んでいます。学会参加や研修に必要な資料購入等に利用させて頂いています。その一環として、積極的に研修を行った研修医(原則2年修了予定者)に対して、毎年水谷孝文賞を授与しています。令和元年度も研修医自己評価・研修医間の相互評価および研修実績を基に総合研修センター委員会により、受賞者を以下のように決定いたしました。毎年、プログラム以外の研修・学会参加など自己研鑽を目的とした積極的研修を行う研修医が増え、また其々に頑張っている内容も異なることから、今年度も受賞者選定は非常に難航致しました。

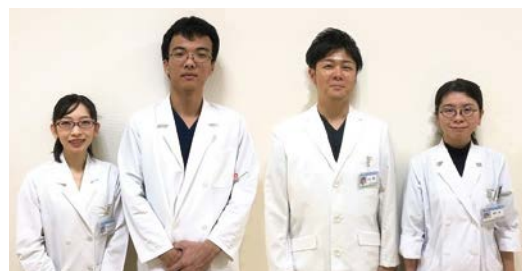
受賞された先生は、今後更に研鑽を積み患者目線に立った臨床家になることに努めるとともに、基金の主旨にあるように名古屋市立大学の一員として将来の医学の発展のために活躍されることを期待します。また、今回惜しくも選考されなかった先生も次なる機会には受賞できるよう、同じく本学・本学関連病院の一員として一緒に引き続き研鑽を積めることを期待します。

医学を科学できる臨床家、臨床を理解できる基礎医学者を目指して!

文責:名古屋市立大学 総合研修センター長 松川 則之

最優秀賞:中野 さつき(大学基盤研修)
優秀賞:今村 篤 (協力型病院連携研修;海南病院)
藤井 藍 (協力型病院連携研修;東部医療センター)
山本 真也(協力型病院連携研修;名古屋徳洲会病院)

敬称略



東部医療センターでは、「入院・診療棟開棟記念式典・内覧会」が行われました

東部医療センターでは、本年1月1日に老朽化していた入院病棟を一新し、開棟いたしました。それに先立ち、令和元年12月8日に入院・診療棟開棟記念式典及び内覧会を開催しました。記念式典では、主催者を代表して河村たかし市長の挨拶に続き、丹羽ひろし名古屋市議会議長、柵木充明愛知県医師会等来賓の方々よりご祝辞を賜りました。

式典に引き続き、市立東星中学校吹奏楽部の皆さんによる記念演奏が行われ、大いに盛り上がりました。演奏終了後には、ご来賓向け内覧会、午後は、一般向け内覧会を開催し、1,282名の参加がありました。開放的な病室や先進医療機器の前に足を止め、熱心に質問される方も多く見受けられ、生まれ変わる当院に対する期待を大いに感じられた1日でした。

入院・診療棟は、新病棟の廊下の壁には千種区の風景をモチーフにした“心を癒やすやさしいヘルスケアアート”を施し、個室は62床から117床に増床し、多床室はすべて光と風が通る個室的多床室となっているなど、①良質で快適な療養環境の提供、②機能的な診療、③災害対策の強化と新病棟の3つコンセプトで設計されています。新入院・診療棟の機能をフルに活用し、市民の皆様により良質で安全な医療の提供、選ばれた病院を目指し、職員一丸となって取り組みます。生まれ変わった東部医療センターを、よろしくお願いたします。

文責:東部医療センター 病院長 村上 信五



河村市長のごあいさつ



村上病院長のごあいさつ



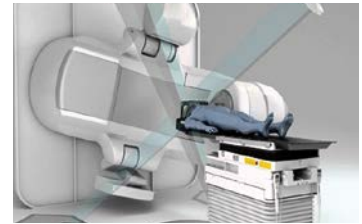
大原病院局長のごあいさつ



一般向け内覧会の様子



入院・診療棟



高精度放射線治療装置(Versa HD) Elekta社

名市大泌尿器科は、ロボット手術見学認定施設として、認定指導医数が日本一となりました!

ロボット支援手術機器ダ・ヴィンチは、術者が3Dモニター画面を見ながら内視鏡カメラとロボットアームを遠隔操作して手術を行う最先端の手術機器です。

名古屋市立大学病院泌尿器科では、2011年に国内で先駆けてダ・ヴィンチを導入し、これまでに前立腺がん、腎がん、膀胱がん、小児先天異常(先進医療) に対し1,000例を超えるロボット支援手術を行って来ました。現在までに関連施設である海南病院、名古屋徳洲会総合病院、蒲郡市民病院、いなべ総合病院でもロボット手術が開始され、当院でトレーニングを受けた執刀医16名が高度な医療を日々患者様に提供しております。

またロボット支援手術を執刀する医師が手術資格を得るために必要な手術見学を行う『認定見学施設』として、最初に認定された国内6施設の1つとなっており(現在では約15施設)、これまでに100名を超える泌尿器科医の手術見学を受け入れ、日本のロボット支援手術の発展を約10年間牽引してまいりました。

さらに近年、国内でのロボット手術機器台数の増加と適応疾患の拡大により、執刀医数の増加が見込まれることから、手術見学の需要が高まると予想されます。これを受け、これまで認定見学施設の指導医であった安井孝周医師(泌尿器科教授)、戸澤啓一 医師(医療安全管理学分野教授)に加え、岡田淳志医師(泌尿器科准教授)、安藤亮介医師(地域医療教育研究センター教授)、濱本周造医師(泌尿器科講師)の3名が新たな認定指導医として承認されました。この認定指導医数5名は国内で最大となります。

今後も名古屋市立大学病院泌尿器科は、安全で高度なロボット手術教育の発信地としても医学の発展に貢献して参ります。

文責:腎・泌尿器科学 准教授 岡田 淳志



安井 孝周 医師
(泌尿器科教授)



戸澤 啓一 医師
(医療安全管理学分野教授)



岡田 淳志 医師
(泌尿器科准教授)



安藤 亮介 医師
(地域医療教育研究センター教授)



濱本 周造 医師
(泌尿器科講師)



第70回名古屋市立大学医学会総会を開催しました

2019年12月8日(日)、医学部研究棟11階講義室Aにおいて第70回名古屋市立大学医学会総会を開催致しました。今回は「令和」として初めての、また「第70回」という節目の開催となりました。午前9時に開会し、午前中は医学会賞の最終選考にノミネートされた6演題の口頭発表が行われ、蝶ヶ岳ボランティア診療班による発表が続き、さらに一般講演2題の発表が行われました。

昼食をはさんで、午後からは総会と特別講演が行われました。今回の特別講演は認知症科学の齊藤貴志教授による「次世代型アルツハイマー病モデルマウスの開発からの応用展開」、高度医療教育研究センター(整形外科)の稲田充教授による「低侵襲固定術 All microscopic Trans-foraminal interbody fusion Microscopic TLIF from the beginning to the end」、地域医療教育学の赤津裕康教授による「“なごやかモデル”の波及効果と今後の課題」、高度医療教育研究センター(消化器内科)の妹尾恭司教授による「胃がん診療の現況 ～検診から集学的治療まで～」、整形外科の村上英樹教授による「腫瘍脊椎骨全摘術(TES)の進歩」の計6講演でした。

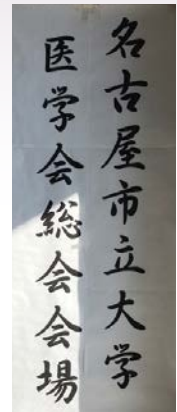
最後に医学会賞の授賞式が行われました。医学会賞臨床部門では「C型肝炎ウイルス感染によるDysbiosis(腸内フローラ異常)と病態進展へのインパクト」を発表した病院/中央臨床検査部の井上貴子先生が受賞し、基礎部門では「mTOR/TFEB経路障害によるオートファジーの低下が腎結石形成を促進する」を発表した腎・泌尿器科学の海野 怜先生が受賞されました。また奨励賞を新生児・小児医学の大橋 圭先生、免疫学の浦木隆太先生、腎・泌尿器科学の杉野輝明先生、細胞分子生物学の三浦陽子先生が受賞されました。

最後まで活発な討論が行われ、午後16時30分に閉会となりました。休日にもかかわらず参加された先生方には厚く御礼を申し上げます。

文責:主任幹事 渋谷 恭之



ポスター発表における質疑応答



当日の立て看板



特別講演の様子

金メダリストの川井梨紗子選手による特別講演を開催しました

令和元年10月23日に2016年リオデジャネイロオリンピックの女子レスリング63kg級の金メダリストの川井梨紗子選手による本学医学部生に対する整形外科のスポーツ分野における特別講演が開催されました。

試合前のメンタリティを含めた練習への取り組みから、スポーツにおける障害に関するまで、学生側からの質問にも真摯に答えて下さいました。また、オリンピックと世界選手権の金メダルを御持参して下さい、参加した学生が直接メダルに触れる機会も作って下さり、非常に貴重な機会となりました。



地域連携フォーラムを開催しました

11月16日に「第8回名古屋市立大学病院地域医療連携フォーラム」を名古屋観光ホテルで開催しました。当院からは診療科の医師71名、地域医療機関からは過去最多の164名の方にご参加いただきました。普段なかなかお会いする機会を得られない先生方にもお越しいただき、地域の先生方と直接お会いし、患者さんが安心して治療が受けられるよう、連携強化について意見交換をすることができました。当院からは肥満症治療センター、がん診療包括ケアセンター、救命救急センター、無痛分娩センターの医療提供体制、受診方法等をご紹介させていただきました。

文責:地域医療連携センター



道川研究科長のご挨拶



意見交換の様子

基礎自主研修優秀学生が学会発表をおこないました

昨年度の基礎自主研修で開始し、その後も主に休暇期間を活用して継続して来た研究の成果を、9月にKFC Hall & Roomsで開催された第26回日本排尿機能学会にて「機械的刺激は感覚神経性CGRPを介して腎盂自発収縮を制御する」という演題で口演発表をさせていただきました。

発表に先立ち、9th FAOPSや第61回日本平滑筋学会にも参加して、予め学会の雰囲気に触れる経験がありましたが、当日は今まで感じたことのない緊張感と責任感がありました。

学会では、論文と質疑応答の大切さを学びました。研究を行う上で論文は共通理解の言語であり、論文をもとに新たな研究が展開され、ディスカッションの根拠ともなっていました。また、質疑応答で意見を交わすことで研究内容を客観視でき、軌道修正やさらなる発展につながると感じました。発表自体は自分にとってほろ苦い経験となりましたが、多くの先生方と交流し、最先端の研究に触れたことは今後に向けてのさらなるモチベーションとなりました。

最後になりましたが、朝から夜遅くまでご指導頂いている細胞生理学の先生方、学会発表をご支援下さった大学の皆様をはじめ、支えて下さった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



医学部4年生 吉川 未花子

この秋もオープンキャンパスは大盛況!

11月2日、会場の病院大ホールはほぼ満席。道川医学部長の挨拶に始まり、入試や本学部の特色などを入試担当の飛田教授が解説。「血液・化学療法」をテーマとした模擬講義も行われ充実した2時間となりました。

学生代表の4年生は医学部生のリアルな日常を紹介。凛々しい白衣姿の5年生は、自らの研究や実習体験を見事にプレゼンテーション。将来をしっかりと見据えたその姿は、参加者の心に強く刻まれたことでしょう。

大学入試制度の過渡期に、この機会ならではのメッセージが少しでも光となりますように…。



5年生のプレゼンテーション

第60回川澄祭を開催しました

第60回川澄祭実行委員長を務めさせて頂きました、医学部4年生の三國奨大と申します。

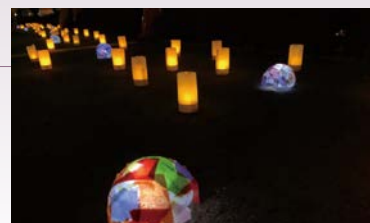
今年は11月1日から11月3日の3日間に川澄祭を開催させていただきました。本年度のテーマは「Be an ENTERTAINER」です。まるでサーカスのように楽しい学祭で来てくださる方々をお迎えしたい、という思いが込められています。そのテーマの通り、とても充実した学園祭を催すことができたことを嬉しく思っております。

今年度は多彩な企画を用意し、テーマに沿った企画を例年以上に多数用意したことで川澄祭全体がサーカスのような雰囲気となり桜山キャンパスの方々はもちろんのこと、地域住民の方々により一層楽しんでいただくことができたと思われまふ。実行委員をはじめとする学生皆で一致団結して運営を進めていったことを評価していただいた声を多方面から受け取り嬉しく思います。

私たち4年生が関わる機会は減りますが、来年の川澄祭にも活かせるよう後輩たちに伝えていきたいと思っております。

最後になりましたが、開催にあたり医学部同窓会の皆様や桜山キャンパスの教職員の方々に格別のご理解とご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

文責:医学部4年 三國 奨大



ひとつこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
 ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
 などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は5月号です)

1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 名古屋市立大学 医学・病院管理部
 経営課経営係 広報担当宛 E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌：瑞医(ずい)
 発行：〒467-8602
 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
 TEL (052) 858-7114 FAX (052) 851-4801

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は2020年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☐☐
**我こそは
 通信員!**

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
 医学・病院管理部経営課経営係 広報担当まで